

# 校長の「学校ビジョン」形成プロセスの研究

—退職校長の経験知に基づくエンビジョンモデルの検証を通して—

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

三浦 英生

本研究は、「校長がかわれば学校は変わるか」という問いを起点に、校長就任初期に見られる「様子を見る」という行為の意味や、「学校ビジョン」が、どのように形成されるのかというプロセスを明らかにすることを目的とした。

まず、理論的検討から「現状把握」「思考」「言語化」「発信」という一連のプロセスをエンビジョンモデルとして仮説的に生成した。次に、A県K市の現職8名・退職8名、計16名の校長に半構造化インタビューを行い、テキストマイニングによる階層的クラスター分析・共起ネットワーク分析と、内容分析を実施した。その結果、エンビジョンモデルは、校長の経験知の構造を可視化する枠組みとして一定の妥当性を有することが確認された。また内容分析の結果、退職校長の語りからは、「空気感・雰囲気重視した感覚的な観察」、「経験や問題意識に根ざした構想」などの特徴が見出された。さらに、これらのプロセスは一方的ではなく、往還的な省察と共感的な対話を通じて展開する動的なものであることが明らかになった。